

コロナで大変な時代だから…こそ

集まれなくてもつながろう!!

第20回全国障害児学級&学校 学習交流集会

開催要綱

期日：2021年1月10日(日)～11日(月・祝)

開催方法：オンライン開催

参加費：無料

視聴方法は、申し込みをされた方にメールで連絡します。



日程 1月10日(日) 13:00～15:50 全体会

18:00～20:00 オンライン交流会

1月11日(月) 9:30～12:30 旬の実践分科会・基礎講座

全体会(1/10) 13:00～15:50

◇ オープニング 13:00 ～ 13:20

今までの学習交流集會を映像で振り返るとともに、コロナ禍の中で、全国の障害児学校の仲間がどのように子どもたちと向き合ってきたかを紹介しながら、今回のオンライン集會で大切にしたいことをお伝えします。また、特別支援学校の設置基準策定を求める運動の最新情報など、障害児教育をめぐる情勢も報告します。

◇ 記念講演 13:20 ～ 14:30

「子どもの心を理解するー自閉スペクトラム症を中心に」

講師：別府 哲さん（岐阜大学）

障害のある子どもの教育において、目の前の子どもの思い、内面を共感的に理解することがすべての出発点だと考えます。しかし新型コロナウイルス感染症、学校の一斉休校などにより、その原点がないがしろにされる危険性を感じています。子どもに聴く（茂木俊彦）姿勢に立ち返り、障害のある子どもの心を見つめなおしたいと思います。特に、その心が理解しにくいといわれる自閉スペクトラム症の子の例を中心に、事例を挙げながら考えていきます。

◇ リレートーク 14:40 ～ 15:50

【テーマ：コロナ禍において さまざまな現場で生きる人たちとともに考える 学校教育の課題と築いていきたい未来】

「一斉休校」や「緊急事態宣言」という、これまで経験し得なかった混乱した状況におかれた私たち。

障害をもった子どもたちは？ 保護者は？ さまざまな現場で働く人たちは？ 脆弱な日本の医療や福祉の現状の中で、人々の命や暮らしを守り続けてきた取り組みから学び、社会をみつめ直し、学校教育の未来について語り合うきっかけをつくりたい。

【医療従事者】 増田 剛さん（全日本民主医療機関連合会 会長）

【福祉従事者】 田中 祐子さん（障害のある子どもの放課後保障全国連絡会 事務局長）

【保護者】 北川道子さん、長村綾さん（特別支援学校 保護者）

まとめの発言 越野 和之さん（奈良教育大学教授）

主催：全教障害児教育部・教組共闘連絡会・現地実行委員会

【お問い合わせ】 TEL 03-5211-0123 FAX 03-5211-0124

カタリバ(オンライン交流会)(1/10) 18:00~20:00

「特別支援学級の先生と交流して、各県の様子を聞きたい」「青年教職員同士で交流したい」などの、ご要望にこたえて、ZOOMでのオンライン交流会を行います。参加数に応じて、グループ分けを行い、15人程度で気軽にオンライン上で交流できるようにします。



旬の実践分科会(1/11) 9:30~12:30

旬の実践分科会	共同研究者
1, 障害児学級での教育実践(小)	大島悦子さん(大阪)
学級には様々な障害、発達段階の子どもが在籍しています。子どもが安心して自分を出してすごせる学級集団づくり、子どもが目を輝かせてとりくめる学習や取り組みについて学び合しましょう。	
杉野 達也(大阪)「Kくんの「自分でやりたい」を大切にしたい授業実践」 本多 一美(京都)「発達差の大きい集団での算数の取り組み」	
2, 障害児学級での教育実践(中)	山下洋児さん(東京)
「できることを増やす」「ドリルを繰り返す」「行動を矯正する」ことが障害児学級の仕事ではありません。学級集団を大事にし、その中で対人関係の力を育むこと、子どもが目を輝かせてとりくめる教材や文化的とりくみを用意すること、その2つの視点をもとに学び合しましょう。	
河本 文子(広島)「中学校特別支援学級の数学 ~手や足を使ったアナログ授業~」 小久保景子(埼玉)「なんくるないさー はじめてのエイサー」	
3, 通級指導教室の教育実践	越野和之さん(奈良教育大)
通常学級の中で困り感を持っている子どもたちの支援の場としての通級指導教室のできることや指導の可能性について皆さんで考えていきましょう。	
太田 義一(東京)「小集団指導だから見える子どもの変化ー特別支援教室の在り方ー」 藤木 桂子(大阪)「通級指導教室から見えてきたこと」	
4, 視覚障害児の教育実践	江口美和子さん(明星大)
視覚に障害のある子どもたちへの、幅広い実践を通して視覚障害教育で大切にしたい視点や専門性を深めます。あわせて、いまのコロナ禍のなかで、さまざまな不安や困難を抱える視覚障害児・者の生活や教育について話し合います。	
原 広三(岡山)「盲学校でのICT活用」 藤木真由美(高知)「子どもをどうとらえるか」~小5全盲児の実践を通して考える~	
5, 聴覚障害児の教育実践	竹沢 清さん (あいち障害者センター)
障害の早期発見、補聴器性能の向上は、インクルーシブ教育の流れと相まって聴覚障害児の就学に大きな影響を与えています。小規模校における専門性の継承発展と共に実践の改善・工夫、発達保障のとりくみ、地域に学ぶ子どもたちの支援や指導のあり方をともに学び合しましょう。	
山城宏(京都)「Aくんのねがいに寄り添って」 (要請中)	
6, 病弱の子どもたちの教育実践	栗山宣夫さん(育英短期大学)
病院や施設、通常の学校や特別支援学校、そして自宅など、病気の子どもたちが学ぶ場は様々です。これらの学びの場で、病弱教育は新型コロナウイルス感染症の影響により大きな困難に直面しています。病弱の子どもたちの学びについて、いっしょに語り合い、学び合しましょう。	
長 正晴(埼玉)「コロナ感染症広がりの中で、埼玉の施設内訪問教育担当者はどう対応したのか?」 林 美紗子(北海道)「新型コロナウイルスと病院内(施設内)での教育のあり方」 千葉 真実(福島)「コロナ禍での重病棟の子どもたちへの教育~福島の現状と課題~」	

7, 発達の違いと授業づくり・教育課程づくり ア) 肢体不自由障害の重い子どもたちの教育実践	河合隆平さん(都立大)
身体的には重度の障害をもつ子どもたち、内面ではゆれる心を抱えながらその思いを表出していく糸口を掴むために、どのように教育課程を作り、授業を作っていけば良いのか、お互いの実践から学び合ひましょう。	
若山 健太 (埼玉)「Aくんと2年間」～小学校高学年で大切にしたいこと～ 岩倉 美希 (滋賀) やりたい<ドキドキから やりたい>ドキドキに変わるって? ～Aくんと3年間を振り返って～	
8, 発達の違いと授業づくり・教育課程づくり イ) ことば獲得期の子どもたち	高木 尚さん(日本福祉大)
自我の芽生えから拡大、言葉を獲得しながらイメージを豊かに広げていくのが「ことば獲得期」の子どもたち。この時期の子どもたちは実に様々な姿を私たちにを見せてくれます。そんな子どもたちに、私たちは心に響く文化をどのように用意するか、育ちあふ集団をどのように保障するか……。人格を豊かに育てていくための授業づくり・教育課程づくりについて考えましょう。	
中野 亜希 (滋賀)「R君のコミュニケーションについて～伝わる楽しさ大爆発!～」 和田 律子 (北九州)「子どもの困り感から出発する」	
9, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり ・教育課程づくり(小)	三木裕和さん(鳥取大)
自閉症の子どもたちの”ねがい”から始める実践を参加者のみなさんと深め合い、授業づくりや活動の工夫、教職員集団づくりについて考えましょう。	
村木彩乃・小杉佳樹(滋賀)「揺れる心に寄り添うには～Tくんの姿から～」 長谷部 寛 (山梨)「学部・家庭との連携で育てる、意欲・関心」 上坂 はな (静岡)「ぼくのこと、おこらないの?～ショウと私が紡ぐ緩やかな関係～」	
10, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり ・教育課程づくり(中・高)	別府 哲さん(岐阜大)
子どもたちの抱えた多様なこだわりや自分なりのルールを受け止めながらも、さらに新たな一歩を踏み出せるように、一番近くで共に過ごす我々が共感的な第三者となり、子どもたちの世界を広げていくことを大切に教育実践を深めましょう。	
村田 豊(神奈川)「私が走る理由。本当の願いは?」 大西友里恵(京都)「A君の願いにこたえたい!でも・・・」	
11, 青年期の課題と授業づくり・教育課程づくり	山崎由可里さん(和歌山大)
自分を表現するのが苦手、不登校を経験するなど困難な生活経過を経て高等部に入ってくる生徒たちに対して、内面に寄り添い心を開いていく取り組み、教科学習や行事、文化にふれる中で、自分のいいところに気づき、自分なりの表現方法と自己実現を模索する取り組み。卒業後を見据えた実践などを報告します。	
藤本千恵(滋賀)「大人になっていく季節を共に…～17歳・揺れ動く子どもたちの声を聴く～」 藤井佳樹(山口)「ONE TEAM～16人の書～」	
12, 性教育の実践	伊藤修毅さん(日本福祉大)
すこやかな発達の証である性の発達と成長を、障害児自身も周囲も喜んで迎えられるよう、リアルな実践報告や実践交流を通してともに学び合ひましょう。共同研究者の伊藤先生によるミニ学習会もあります。	
荻本 恒也(東京)「できるところから性と生の授業を」	
13, 精神的な課題を持つケースへの指導・支援を考える(寄宿舍1)	小野川文子さん (北海道教育大釧路校)
精神的な課題を持つ寄宿舍生のケースレポートを通じて、寄宿舍の連携、指導、支援を考察します。コロナ禍で寄宿舍生活が変わる中、今後どのように支援をしていくべきか、意見交流もしていく予定です。	
長谷川 宏(東京)「奇跡を起こした寄宿舍生活～不登校からの変換、初めての学校生活のスタート～」 松谷 茂樹(和歌山)「W.Kくんとフラッシュバック(不安定)攻略大作戦」	
14, 小学部生への豊かな寄宿舍実践(寄宿舍2)	能勢ゆかりさん(滋賀)
小学部生から親元を離れて寄宿舍で生活することは、決して簡単なことではありません。時には保護者のように愛情を持って接することも重要です。また、盲学校、ろう学校では幼少期・小学部からの障害特性に応じた指導も重要で、寄宿舍の役割も求められます。小学部生の寄宿舍生は全国的に少なくなっています。小学部生にとっての舎生活、指導の在り方を語り合ひましょう。	

並木 利恵（埼玉）「女子会始めるよー！～寄宿舎生との性教育珍道中～」 田口かすみ（東京）Aさんが「より良く生きる」ための指導	
15, 寄宿舎の魅力进行語ろう（寄宿舎3）	中村尚子さん （発達保障研究センター）
寄宿舎の魅力进行発信すること、魅力进行語り合うことが実践面でも運動面でも求められています。寄宿舎の魅力が感じられるレポートとその討議进行通じて、寄宿舎教育の意義・役割と統廃合が進む寄宿舎の現状、教育的な在り方を語り合いましょう。	
田中 秀典（高知）「日々のドラマから寄宿舎の魅力、よさについて振り返ってみよう」 坂上 哲雄（東京）「自治活動の指導の見直しの中で」～初めて役員になった T 君の成長と変化～ 桐生 浩之（東京）「T と S 響きあう二人」 ※東京の 2 本のレポートは合わせて 1 本のレポートとして発表	
16, 保護者との共同・教育条件整備・学校づくり	吉田 洋さん（滋賀）
コロナ禍の困難な状況でも、子どもや保護者の願いに寄り添い、共に繋がって、どのように運動进行発展させるのか。保護者と一緒に運動进行進めるにはどうすればよいか。これまで保護者と一緒に教育条件拡充のための運動进行進めてきた組織の報告をもとに、その基礎となる民主的な学校づくりをどのように進めていくか議論を深め、発展方向を探りましょう。	
藤田 明宏（北海道）「コロナ禍にともなう一斉臨時休校と『親の会』合同の要請行動～その意義とこれから」 西面 友史（大阪）「コロナ禍における運動～大阪障害児教育運動連絡会のとりくみより～」 中藤 美紀（高知）「ゆたかに学べる教育の実現をめざして～知的特別支援学校の新設を求めて～」 岡田 徹也（滋賀）「学校ってなんだろう～みんなで考え、悩み、語り合い、もがきながらの一年間の記録」	

基礎講座(1/11) 9:30～11:30

「気づきからはじまる子ども理解」 土岐邦彦さん（岐阜大学名誉教授）

コロナ禍は学校現場に不安をもたらしたただけではなく、“かかわりふれあうこと”をいとおしむ感情がすべての子どもたちの奥底にあることに気づく契機にもなりました。子どもたちの不安やねがいに寄り添いながら教育実践をどう創造していくか、ともに考えましょう。

参加のお申し込みについて【締め切り 12月15日】

1、参加の申し込み方法について

今回は、オンライン開催のため、WEB申し込みのみとします。

以下のURL、またはQRコードから、フォーム画面を出して、申し込みをお願いします。オンライン開催のため、分科会の人数を調整させていただくことがありますので、分科会については第2希望までご記入ください。

※申し込み後は、受付確認メールが「gakkyu_gakko2020@yahoo.co.jp」から届きます。その確認メールが届かない場合は、下記2までお問い合わせください。

※分科会で手話通訳を希望される方は、申し込みフォームの自由記述欄に必ずお書きください。
（手話通訳の申し込みは、11月末まで。全体会は字幕を付けます）

申し込み URL <https://tayori.com/form/edd015121d0bb295b1841f32b76bbd9ef0c35136>

2、お問い合わせ（全国実行委員会・全教障教部）

- TEL (03) 5211-0123
- FAX (03) 5211-0124
- MAIL a_aoki@educas.jp
- 担当：佐竹、青木

